

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 21 年 7 月 16 日 (2009.7.16)

【公表番号】特表 2005-534703 (P2005-534703A)

【公表日】平成 17 年 11 月 17 日 (2005.11.17)

【年通号数】公開・登録公報 2005-045

【出願番号】特願 2004-526726 (P2004-526726)

【国際特許分類】

C 0 7 C 67/347 (2006.01)

C 0 7 C 67/343 (2006.01)

C 0 7 C 69/593 (2006.01)

C 0 7 C 69/602 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 67/347

C 0 7 C 67/343

C 0 7 C 69/593

C 0 7 C 69/602

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 21 年 5 月 26 日 (2009.5.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

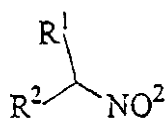
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (II) :

【化 1】

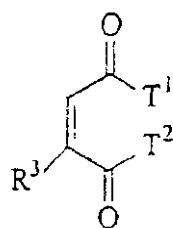


(II)

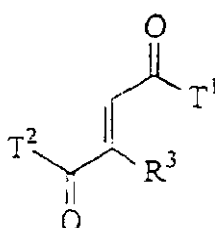
の化合物と、

式 (IIIa) または (IIIb) :

【化 2】



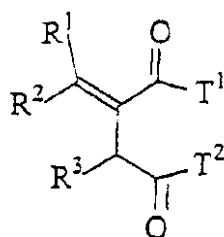
(IIIa)



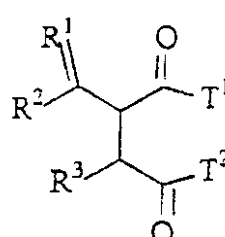
(IIIb)

の化合物とを、式(IIIa)または(IIIb)の化合物に対して少なくとも1当量の金属Mのカーボネート（Mはカリウム）の存在下、70 より高い温度で反応させる工程からなる、式(1a)または(1b)：

【化 3】



(1a)



(1b)

〔式中、R¹、R²、R³は、互いに同一または異なり、水素原子、または周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含むC₁～C₂₀の炭化水素基、またはR¹とR²は、共に結合して、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む飽和または不飽和のC₃～C₁₀環を形成できる、但し、R¹とR²が共に水素原子のときは、式(1a)の化合物のみが得られる、

T¹とT²は、互いに同一または異なり、H、OR⁴、R⁴、NR⁴₂、SR⁴またはPR⁴₂、またはT¹とT²は、酸素原子あるいはNR⁴基と結合し、T¹-O-T²基またはT¹-NR⁴-T²基を形成でき、

R⁴は、互いに同一または異なり、周期律表の族13～17に属する1以上の異原子を任意に含む、C₁～C₂₀炭化水素基である〕

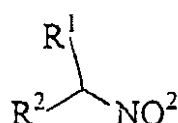
の2-アルキリデン-1,4-ジオン誘導体または式(1a)と(1b)の混合物の製造法。

【請求項 2】

次の工程：

a) 式(II)：

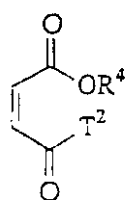
【化 4】



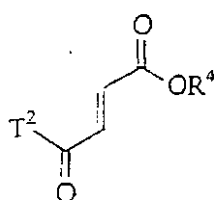
(II)

の化合物と、式(Va)または(Vb)：

【化 5】



(Va)

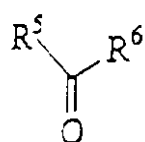


(Vb)

の化合物とを、式 (Va) または (Vb) の化合物に対して少なくとも1当量の金属Mのカーボネート (Mはカリウム) の存在下、70 より高い温度で反応させ、

b) 工程a) で得られる化合物と、式 (VI) :

【化 6】



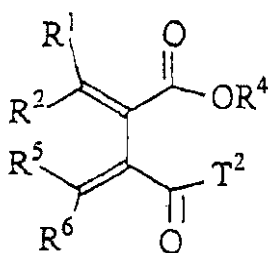
(VI)

の化合物とを反応媒体と塩基の存在下で処理し、かつ

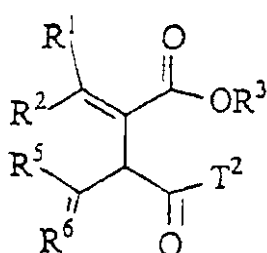
c) 工程b) で得られる生成物をエステル化することからなる、

式 (IVa)、(IVb) または (IVc) :

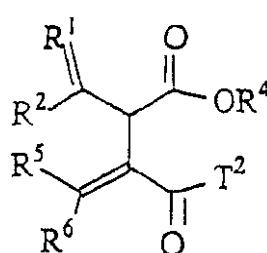
【化 7】



(IVa)



(IVb)



(IVc)

(式中、 R^1 、 R^2 、 R^4 と T^2 は、請求項1に記載したのと同じ意味で、 R^5 と R^6 は、互いに同一または異なり、水素または、周期律表の族13~17に属する異原子を任意に含む $C_1 \sim C_{20}$ 炭化水素基、または R^5 と R^6 は共に結合して、周期律表の族13~17に属する異原子を任意に含む飽和もしくは不飽和の $C_3 \sim C_{10}$ 環を形成できる；但し、 R^5 と R^6 は同時に水素ではない) の2,3-ジ置換アルキリデン-1,4-ジオン誘導体またはその混合物の製造法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

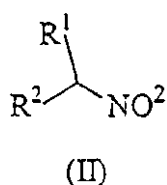
【訂正の内容】

【0007】

従って、本発明の目的は、

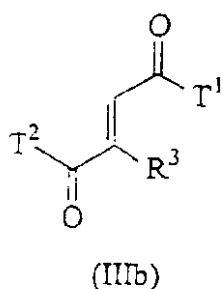
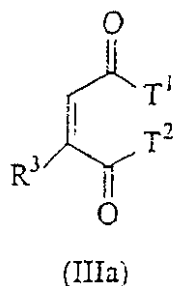
式(II)

【化 1】



の化合物と、式(IIIa)または(IIIb)：

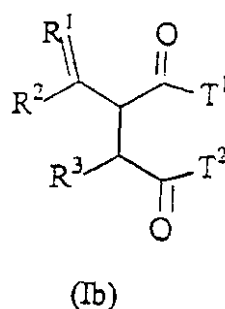
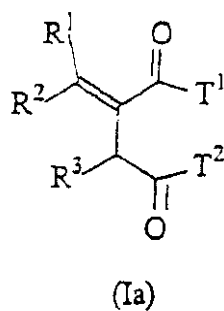
【化 2】



の化合物とを、塩基性の塩または中性塩基の、式(IIIa)または(IIIb)の化合物に対して少なくとも1当量の存在下、70 以上高い温度で反応させる工程からなる、

式(1a)または(1b)のアルキリデン-1,4-ジオン誘導体または式(1a)と(1b)の混合物、

【化 3】

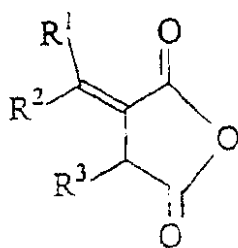


〔式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 は、互いに同一または異なり、水素原子、または周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む $C_1 \sim C_{20}$ の炭化水素基、または R^1 と R^2 は、共に結合して、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む飽和または不飽和の $C_3 \sim C_{10}$ 環を形成できる、但し、 R^1 と R^2 が共に水素原子のときは、式(1a)の化合物のみが得られる、

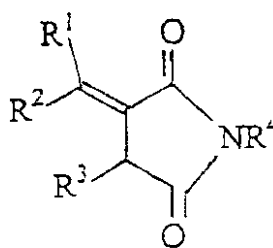
好ましくは R^3 は、水素原子、線状あるいは分枝状、飽和あるいは不飽和の $C_1 \sim C_{15}$ アルキル、 $C_3 \sim C_{10}$ シクロアルキル、 $C_6 \sim C_{10}$ アリール、 $C_7 \sim C_{12}$ アルキルアリールまたは $C_7 \sim C_{12}$ アリールアルキル基；より好ましくは R^3 は、水素原子、線状あるいは2級の $C_1 \sim C_8$ アルキルまたは $C_5 \sim C_7$ シクロアルキル基、例えばメチル、エチル、イソブチルまたはシクロヘキシル；さらにより好ましくは R^3 は、水素原子；

T^1 と T^2 は、互いに同一または異なり、 H 、 OR^4 、 R^4 、 NR^4_2 、 SR^4 または PR^4_2 、または T^1 と T^2 は、酸素原子あるいは NR^4 基と結合し、 T^1-O-T^2 基または $T^1-NR^4-T^2$ 基を形成でき、例えば式(1c)または(1d)

【化 4】



(Ic)



(Id)

の化合物と対応する二重結合異性体を形成できる、

R^4 は、互いに同一または異なり、周期律表の族13～17に属する1以上の異原子を任意に含む、 $C_1 \sim C_{20}$ 炭化水素基、好ましくは R^4 は、線状あるいは分枝状の $C_1 \sim C_{20}$ アルキル、 $C_3 \sim C_{10}$ シクロアルキル、 $C_6 \sim C_{10}$ アリールまたは $C_7 \sim C_{12}$ アルキルアリール基、より好ましくは R^4 は、線状あるいは分枝状の $C_1 \sim C_8$ アルキルまたは $C_5 \sim C_{10}$ シクロアルキル基、例えばメチル、エチル、イソブチル、*t*-ブチルまたはシクロヘキシル、

好ましくは T^1 と T^2 は、 OR^4 、 R^4 、 NR^4_2 、 SR^4 で、より好ましくは T^1 と T^2 は、 OR^4 である〕
の2-アルキリデン-1,4-ジオン誘導体または式(Ia)と(Ib)の混合物の製造法である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

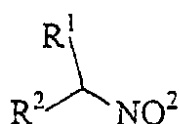
【0025】

この発明のさらなる目的は、

次の工程：

a) 式(II)：

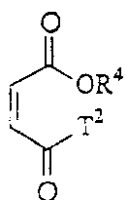
【化 6】



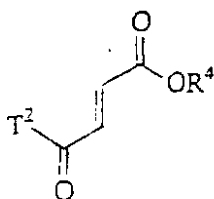
(II)

の化合物と、式(Va)または(Vb)：

【化 7】



(Va)



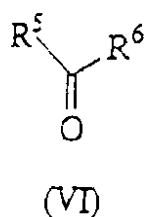
(Vb)

の化合物とを、式(Va)または(Vb)の化合物の少なくとも1当量の金属Mのカーボネー

ト (Mはカリウム) の存在下、70 より高い温度で反応させ、

b) 工程a) で得られる化合物と、式 (VI) :

【化 8】

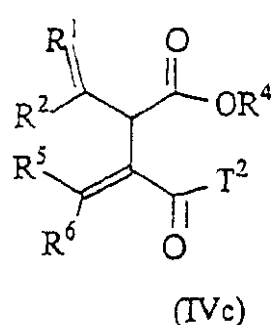
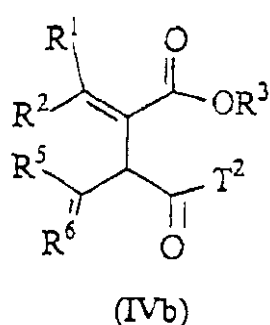
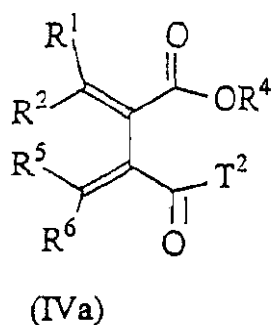


の化合物とを反応媒体と塩基の存在下で処理し、かつ

c) 工程b) で得られる生成物をエステル化することからなる、

式 (IVa)、(IVb) または (IVc) :

【化 9】



(式中、 R^1 、 R^2 、 R^4 と T^2 は、上記、好ましくは T^2 は OR^4 ; R^5 と R^6 は、互いに同一または異なり、水素または、周期律表の族13~17に属する異原子を任意に含む $\text{C}_1 \sim \text{C}_{20}$ 炭化水素基、または R^5 と R^6 は共に結合して、周期律表の族13~17に属する異原子を任意に含む飽和もしくは不飽和の $\text{C}_3 \sim \text{C}_{10}$ 環を形成できる ; 但し、 R^5 と R^6 は同時に水素ではない) の2,3 - ジ置換アルキリデン - 1,4 - ジオン誘導体またはその混合物の製造法である。